

統合ケアマネジメント事例検討会は、一般財団法人オレンジクロスにより研究事業として行われている多職種の検討会。①利用者像の捉え方（周囲との関係性を含む）、②見立て、③課題設定、④課題の原因分析、⑤対策一に関する捉え方や考え方を出し合うことで、最適な支援方法を多職種で検討する会として行われている。

今月の A さん

神経難病で誤嚥性肺炎を繰り返す 70 代男性。
ゼリーで固めた栄養剤しか食べられないが、
「大好きなカニを食べさせてあげたい」

事例検討会の参加者

事例提供者 D 子さん 居宅介護支援事業所 ケアマネジャー
司 会 川越雅弘 埼玉県立大学 保健医療福祉学研究所 教授
参 加 者 ケアマネジャー
医師
看護師
PT（理学療法士）、OT（作業療法士）、ST（言語聴覚士）
管理栄養士
介護福祉士
小規模多機能管理者
その他多職種、参加者 30 名

果たして、統合ケアマネジメントを通して D 子さんの見立てはどのように変わるのでしょうか。みなさんも、次の表から、A さん像を想像してみてください。

A さんの概要

1. 基本情報	
① 性別・年齢・介護度	男性、70 代、要介護 5
② 自立度 身長、体重	寝たきり度：C2 認知症自立度：IV 身長：178 cm 体重：不明

③ 同居者／主介護者 家族の状況	同居者：妻・息子 / 主介護者：妻 妻：糖尿病で通院、服薬継続中 息子：長く引きこもり状態。精神科に通院。
④ 経済状況	生活保護
⑤ 居住環境、住んでいる 地域の様子	公営住宅に居住。 エレベーターあり。浴室・トイレ入口に 10 cm の段差。玄関は車椅子のまま出入りができる。
⑥ 連絡元	地域包括支援センターから紹介。
2. 生活歴／現在の生活／趣味／参加の状況	
① 生活歴・職歴、出身地、 家族の関わり等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団就職で金属加工の町工場に就職。 ・ 親戚の紹介で結婚。妻も一緒に工場で働き、息子、娘を育てる。 ・ 歩くことが好きで、通勤も徒歩。よく散歩していた。 ・ 腕が良く、経営者から後を託されていたが、経営不振で 10 年前に工場は閉鎖。生活保護を受ける。 ・ 10 年ほど前からふらつき、転倒が出現。パーキンソン病と診断され、治療を開始。効果不良、進行の速さ、脳 SPECT の結果から進行性核上性麻痺と診断。 ・ 6 年前頃から呂律が回らず会話ができなくなり、1 年後には筆談、その半年後には文字ボードで意思表示。
② 現在の生活状況	ベッド上で終日過ごす。仰臥位から身体を丸めて左側を向くことができるが、一人で動くことができない。食事はエンシュアリキッドをゼリーにしたものを全介助で摂取、排泄はベッド上で全介助。
③ 性格	<ul style="list-style-type: none"> ・ 頑固：デイサービスで入浴しても帰宅すると必ず風呂に入るときかなかった。気になることは解決するまでやりきる。 ・ 優しい：成績が良く大学に行きたかったが断念。きょうだいの進学は経済的にも支援。 ・ 真面目：家と職場を往復する毎日。 ・ 研究熱心：手作業の細かい部分については工場の中で一番得意で、改良点についていつも考えていた。
④ 本人の持つ強み、 抱負、興味、自負等	風呂が好き。手先が器用で仕事一筋だった。 話しかけられる内容を理解して、うなずきなどで意思表示ができる。在宅介護を続けたいという家族が常時かたわらにいる。
⑤ 趣味／嗜好	趣味：特になし。テレビを眺めている。1 年前位までは新聞を読んでいた。 嗜好：食べることが好き。毎年暮れになると、田舎からカニが送られてくる。一人で抱えるようにして食べていた。
⑥ 参加	1 年前までは車椅子で散歩をしていたが、車椅子での座位保持ができなくなり行っていない。
3. 病歴／健康状態	
① 入院歴	5 年ほど前までは誤嚥性肺炎でたびたび入院をしていた。家族が自宅で看取ると決めて、以降は熱が出てでも入院をしていない。
② 合併症・疾患	進行性核上性麻痺、慢性心不全、前立腺肥大
③ 受診状況 服薬状況	訪問診療：月 2 回 服薬：ゼリーで服薬。レンドルミン D 錠 0.25mg、ニュープロバッチ 9mg、ユリーフ錠、アレグラ錠、ブルゼニド錠 12mg
4. 心身機能／基本動作／ IADL / ADL	
① 心身機能	低栄養、脱水あり。両上下肢・体幹の筋力低下重度。両膝関節拘縮中度。両上下肢に不随意運動あり。
② コミュニケーション	声掛けにうなずくことができ、家族はそれで察している。

③ 基本動作	全介助	
④ IADL	すべて家族が行っている。	
⑤ ADL	全介助	
5. 本人・家族の意向／専門職の援助方針		
① 本人	(家族が代弁) ・お風呂が好き。湯船に浸かるのは嬉しい。 ・外に散歩に行きたい。	
② 家族	・もうすぐカニが届くので食べさせてあげたい。半年くらい前からエンシュアリキッドのゼリー以外はむせてしまうので食べさせるのは難しいかもしれない。 ・入院はさせずに、家で看取りたい。時々熱を出すことがあるが、先生や看護師さんのおかげで自宅でお正月を迎えることができそう。	
③ CM、計画作成者等の援助方針	・自宅で家族と一緒に暮らし続ける。 ・褥そうや誤嚥性肺炎のリスクが高く、急変も予測されるため家族と医療・介護の専門職が連携をして対応をする。	
6. CM、計画作成者などが設定した課題		
【課題内容】	【長期目標】	【短期目標】
① 発熱を繰り返しているが、体調が変化した時にすぐに対応をして、症状が重くならないようにしてあげたい。	誤嚥性肺炎などで入院せずに、家族と一緒に自宅で過ごすことができる。	元気にお正月を迎えることができる。
② 自宅で心地よく過ごすことができる。	大好きなお風呂に入り、皮膚のトラブルなく暮らすことができる。	褥そうを防ぐことができる。
7. サービスの利用状況		
① 居宅療養管理指導	(医師) 月2回。熱発時には往診あり。 (歯科医師) 月1回。 (薬剤師) 錠剤の飲み込みができなくなった時には、粉末にするとの提案あり。	
② 訪問看護 (医療保険)	看護師：週3回。週3回補水のための点滴。全身状態の確認、家族からの相談に応じる。 理学療法士：週3回ベッド上での施術、端坐位からの立ち座り訓練、車椅子に移乗し窓から景色を見る。	
③ 訪問入浴	週2回。体調に応じ、全身浴や清拭にて対応。	
④ 福祉用具貸与	特殊寝台・3モーター、特殊寝台付属品 (介助バー、サイドレール、スライディングシート)、床ずれ防止用具 (エアマット)、体位変換機 (ナーシングパット三角)、車椅子 (屋内用)。	
⑤ 訪問理美容	2か月に1回自宅で調髪。	

● 課題の確認

司会 まず、資料にもとづき補足説明をお願いします。

D子さん ご本人は、男性70代後半で要介護5です。身長は178cmで大柄です。奥様と息子さんが同居しています。息子さんは、長く自宅に引きこもっています。生活保護世帯で、エレベーターのある公営住宅にお住まいです。大きな公園が近くて、元気な時はよく散歩をしていたそうです。

山陰の出身で、4人きょうだいの長男で、集団就職で金属加工の工場に就職。奥様ともそこで知り合って、一緒に働きながら2人のお子さんを育てあげました。職人として腕がよく、真面目なので、経営者からの信頼もあつく、経営を任されるまでになっていたのですが、10年前ぐらいに経営不振で工場が閉鎖。発病して、生活保護を受けるようになりました。

学校の成績は良かったそうですが、家庭の事情で大学進学を断念。ごきょうだいの進学は応援して、経済的にも支援していましたので、今も大変仲は良いようです。田舎からは毎年暮れにカニを送ってくれていて、楽しみにされています。真面目な方で、お酒、タバコもいっさいやらず、奥様がダンスを始めた時には、「お前は遊んでばかりいる」と怒ったというエピソードがあります。

パーキンソン病を疑われ、治療を始めましたが、効果がなく進行もはやいので、最終的には進行性核上性麻痺と診断されました。今は言葉での意思表示が難しい状況です。食事はエンシュアリキッドをゼリーで固めたものを3食召し上がっています。この季節に毎年、故郷から届くカニを何とかして食べさせてあげたいと奥様は強くお考えになっています。

司会 本人の意向ですが、家族の方の代弁によると、もともとお風呂が好きな方だということで、入浴している時は非常に喜んでおられる。今はほぼベッドで生活をされているので、散歩をしたい、せめて、ベッドから離れて、車椅子に座って外の景色を見たいというふうに思っているだろう。毎年、秋になると、故郷からカニが届くので、食べたい。奥様は、昨年まではミキサーにかけて、ゼリーにして食べさせていたけれども、今年は難しいかもしれない。それでも何とか食べさせてあげたいと考えていらっ

しゃる。ご家族は看取りも自宅だと決めて、入院はさせない。熱発も時々あるけれども、訪問診療や訪問看護で治療できている。何とか、自宅でお正月を迎えることができそうだとご家族はお考えであるということによろしいですか。

D子さん はい。

司会 課題としては、熱発を繰り返しているのので、すぐに対応して症状が重くならないようにする。それと、心地よく過ごしていただくというところが二つ目。この二つでよろしいでしょうか？

D子さん はい。

司会 今日は、さまざまな専門職の方が参加しています。今支援で困っていることとか、専門職に聞いてみたいことが今の時点であればおっしゃってください。

D子さん リハビリの方に車椅子への移乗方法を伺いたいです。現状では、ご家族だけではできていなくて、訪問リハビリの時にPT(理学療法士)が移乗させていて、その時だけ車椅子にうつることができています。ご家族でできるようになれば、毎日車椅子で窓際まで行って外を眺められます。散歩は無理でも、せめて外が見られれば気晴らしになるのではと思います。

● 本人像への質疑

ベッド上で体が丸まっているが、
端座位はかろうじてとれる。

司会 それでは、事実関係の確認から始めていきたいと思います。本人の状態像や、本人と家族の関係性とか事実関係の確認をまず行い、その後で、アドバイスをお願いします。

ケアマネ1 訪問介護のヘルパーは入っていないので、介護はすべてご家族がされていると思います。奥様と息子さんとでどういう分担でしょうか。

D子さん 食事の支度や食事介助、排泄まで、介護は奥様がすべて行っています。ヘルパーさんをお願いした時もあったのですが、他人が出入りすることで息子さんが落ち着かなくなってしまったので止めました。息子さんは、移乗のところを手伝っています。体が丸くなっていてベッドの足元のほうに体が

ずれていってしまうので、抱えて上に戻すところをやっけていただいています。あと、サービスの担当者への連絡も、自分の役割と決めているようで、私のところにも息子さんから連絡がきます。

介護福祉士 認知症日常生活自立度Ⅳとありますが、ご自身の意思やお考えは伝えることができている状況でしょうか。

D子さん 話しかけたことについて、表情やうなずきがあるので、まったくおわかりになっていないということではないだろうと考えています。そこからご家族がご本人の意思を推察しておられます。

Y作業療法士 家族だけで車椅子への移乗ができるようにというご希望がありましたので、身体状況を詳しく教えてください。足に拘縮があるということですが、股関節や膝は、90度以上曲がりますか。車椅子に座った時に、体がずれてくることはありますか。

D子さん 角度まで詳しくはわかりませんが、何とか端座位をとることはできています。車椅子に座るとお尻が前にずれていってしまっていて、散歩ができなくなりました。膝はベッドの上では曲げたままで、セラピストが来た時に他動的に伸ばしていますが普段は曲がっている状態です。

Y作業療法士 食事の時の姿勢はどうでしょうか。

D子さん 食事の時は、介護ベッドの背上げをして、しっかり身体を起こして、オーバーテーブルを置いて介助を受けています。誤嚥しないように背上げはしっかりしてくださいと指導を受けて、ずっと守っています。

K理学療法士 体格はどうですか。ぼっちゃりですか、それとも痩せている？息子さんですが、協力はいつも得られる感じでしょうか。

D子さん 痩せています。息子さんは、協力的ですが親子げんかをしている時はだめです。それで、ベッドで下にずれたのを奥様が一人で戻すことができるようにスライディングシートを介護保険でレンタルしています。

K理学療法士 ベッドで寝ている時の姿勢はどうでしょうか。

D子さん ベッドの上では、右を向いて丸くなる。上向きにもなれますけど、すぐだんだんだんだん右に向いて丸くなって、膝もいつも曲がっています。

言語聴覚士1 お食事はエンシュアリキッドをゼ

リーにして召し上がっているということですが、1日にどのぐらいの量を召し上がっているのか教えてください。2つ目は、ゼリーの召し上がり方ですけれど、クラッシュしてぐちゃぐちゃにしてから召し上がっているのか、作った状態のまま、例えば、四角に切り取った状態で召し上がっているのか。3つ目は、水分摂取ですが、どのように摂っていますか。

D子さん エンシュアリキッドのゼリーは、プラスチックの大きな保存容器で1日1L一度につくって分けて食べています。薄めているのだとは思いますが、もとのエンシュアの分量は確認していません。ゼリーをスプーンで潰したものを召し上がっています。水分は別に水をゼリーにしているのと、訪問看護が来て、週3回、点滴を500mL入れています。

言語聴覚士2 食事の時の姿勢について指導を受けたという話がありましたが、指導したのはどなただったのでしょうか？

D子さん 2年前まで言語聴覚士が入っていて食事の時の姿勢も指導していました。退職してしまって今はその代わりの方がいない状況です。

言語聴覚士2 そうすると、最後に指導を受けたのが、2年前ということになりますね。

D子さん おそらくそうだと思います。

● 本人像への質疑

家族と同じものを食べたい、
ラーメンをミキサーにかけて食べていた。

ケアマネ2 去年までは、カニをミキサーにかけてゼリーにして食べていたのではと思いますが、今年はこの方法ではだめな理由を教えてください。それとも、カニをそのまま食べさせて差し上げたいということですか。

D子さん これまでは、ラーメンでも何でも全部ミキサーにかけ、ゼリーにして召し上がっていたのですが、最近は、エンシュア以外を食べるとむせてしまうので難しいかもしれない、でもスープならいけるのかもしれない、そんなお気持ちのようです。

ケアマネ3 介護保険でレンタルしている福祉用具について教えてください。車椅子はどんなタイプのものですか？介護ベッドは、背上げた時に、誤嚥

しにくい姿勢になるような工夫のあるものが最近は出ていますが、そういうものをお使いでしょうか。

D子さん 車椅子は、室内でも小回りが利くような6輪タイプです。介護ベッドは、一般的な3モーターの介護ベッドで、背上げて座位になる時は、クッションで身体を支えています。大きなものを入れ替えるのはやめてほしいと、私が担当になった最初に言われてましたので、ベッドを入れ替えるという発想はなかったです。

ケアマネ3 入院しないと決めた頃は今よりはご本人の意思がはっきりしていたかと思うのですが、その頃の話聞いたことはありますか。

D子さん 私が係わった時にはご本人が言葉で意思表示できる状態ではありませんでしたが、「お父さん家にいたいよね、入院したくないよね」と家族が話しかけるとうなずいていました。病院での対応が気に入らないので、とにかく家でみてあげたいというような、そんなお話をされていたように思います。

言語聴覚士3 主治医はどんな方ですか。今後についてどのように説明を受けているのでしょうか。

D子さん 50代の女性で、神経内科が専門です。ご家族には、誤嚥性肺炎を繰り返して、徐々に弱り、最期を迎えられるのではないかというお話をされています。口で食べられなくなったら胃ろうを作らなければいけないというお話もされていますが、ご家族は決断ができていないという状況です。このご家族は、息子さんへの対応がすごく難しい。支援者側が先走ると息子さんが拒否する可能性があるので、先生は、丁寧に説明し、ご家族のお考えを本当によく聞いて、方針を決めています。

ケアマネ4 私の経験では、パーキンソン病や進行性核上性麻痺では、味覚がなくなったり、薄くなったり、鼻が利きにくくなったりという症状が半分くらいの方にありました。この方はどうですか。例えば、エキスでだけでも美味しく感じられる状況は保たれているのかどうか。歯科も入っていますが、VF（嚥下造影検査）とかVE（嚥下内視鏡検査）をやっているのかを教えてください。

D子さん もともと食べることがとても好きな方で、ご家族が召し上がっていると横で「食べたい」という素振りをなさるので、同じものをミキサーにかけて出してきました。美味しいと感じているかはわか

らないけれど、家族一緒に食べることを大事にさってきたご家庭です。歯科医師は、嚥下の検査をする方ではないです。息子さんが、「治療をすると歯の詰め物の中に何か装置が埋め込まれる」と言うので、検査や治療目的ではなく口腔のトラブルを防ぐという目的で入っていただいています。

ケアマネ5 ご家族の関係性はいかがでしょうか。

D子さん ご本人が動けていて転倒を繰り返していた時は奥様も大変で、「腹が立ってしょうがない。面倒見切れない」みたいなことはおっしゃっていましたが、その時も施設や病院に入れてしまいたいという話は聞いたことはありません。

ご主人様を本当に愛していて、最後まで自分で世話をするというお気持ちでいらっしゃいます。今よりまだお元気な時には、しょっちゅう車椅子に乗せて連れ出して、昔の職場まで歩くと50分ぐらいあるんですけど、お父さんが喜ぶからと連れて行っていました。息子さんもお父さんが大事。お父さんのことは自分がやっていきたいというお気持ちをお持ちです。

ケアマネ5 ご本人が70歳代後半だから、奥様はそれより若くて、息子さんの少しのサポートで今は何とかできているのだと思いますが、ご自宅で看取りとなった時に、奥様に負担がかかりすぎてしまわないか心配です。

D子さん 「私が倒れたらどうしようもないんだからね」ということは、奥様が息子さんに話されています。支援チームとしては、奥様の体調よりも、いざ家で看取りまでという時に息子さんがどう荒れるかが分からないのを心配しています。奥様が家で看取りたくても、息子さんが救急車を呼んでしまうかもしれない。奥様も息子さんが荒れるほうがしんどいのではないかと考えています。

I看護師 カニは美味しいだけではなくて、特別な幸福感がある食材なのでぜひ食べさせて差し上げたい。どういうタイミングで食べていただくのが良いかを考えたいので教えてください。看護師は週3回、リハビリは週3回。訪問入浴もあるのですが、訪問のスケジュールを教えてください。

D子さん 看護師が月水金。月木金がリハビリ。訪問入浴は火曜と金曜です。

I看護師 看護師、リハ、入浴もとなると金曜日はハー

ドスケジュールですね。休息と活動のバランスとか、食事と活動のバランスを見て、どのタイミングならカニを美味しく召し上がっていただけるか考えると、リハのある日だとパワーが切れているかもしれませんね。そもそもですがリハは週3回も必要ですか。車椅子もリクライニングタイプだったら外出もできるのではないかと思うのですが、リハはちゃんと提案しているのかしら。

D子さん リクライニングタイプの車椅子も検討はしたんですが、室内に置く場所がないのでベランダで保管しないといけない。そうなると、重たくて持ち出すのが大変だからこれは無理だということになりました。

ケアマネ6 息子さんに対しては何か支援は入っていますか。

質疑応答から 見えてきたAさん像

- ① 家族思いで真面目な人生。統合失調症の息子さんもお父さんが好き。
- ② 話すことはできないが、表情で意思を伝えることができる。
- ③ 食べることがとても好き。家族と同じものを食べたがる。
- ④ 座ることはかろうじてできるが、お尻が前にすべってくる。

D子さん 息子さんは精神科に通院はしていますが、「この薬が危ない」と言い出して、行かなくなってしまうそうです。訪問看護はすべてお父様への対応です。私が自宅に伺う時は、いつも息子さんがい

るので、奥様に詳しく事情を聞くことはできていません。

管理栄養士 エンシュアリキッドのゼリーが大丈夫で、他のものがむせるということは、基本あり得ないので、すごく不思議に思って聞いていました。エンシュアリキッドや水は何を使ってゼリーにしているのか教えてください。

D子さん ゼラチンです。

● 多職種からのアドバイス

むせてしまうのは
ゼラチンが体温で溶けるから？
最適の嚥下補助剤の再検討を。

管理栄養士 ゼラチンは体温で溶けるので、本当は嚥下障害のある方におすすめしたくない素材です。エンシュアリキッドは固まりにくいので、かなり硬く固めてとりあえず飲み込むことができていたのだと思いますが、他のものだと体温で溶けて、むせるんだろうと推測いたしました。

とろみは、粘りつくようにゆっくりのどに落ちて行くのですが、ゲル化剤だとまとまるのでそのままスルンと落ちる。ごっくんのタイミングが合わない人はまれにむせることもあります。ゼリーを食べているのなら大丈夫ではないかと思えます。ゲル化剤を一般的におすすめしないのは、加えた時の温度で硬さが違ったり、加熱が必要なので面倒だからですが、「ミキサージェル」という商品は、加熱不要で使いやすく、冷たい水かお湯か指定して、何ccにスティック1本分と決めてしまえばきちんとした濃度が出ます。

です。アセスメントで適切な食形態を出して、嚥下補助剤を検討すれば、カニエキスでよいならいくらでも食べられると思います。アセスメントはうちの訪問看護ステーションなら看護師もできますし、管理栄養士や、ST（言語聴覚士）もできます。高濃度のとろみでも良いのかもしれませんが。詳しい人にきちんとみてもらって、教えてもらえば食べる可能性を広げることができると思います。

言語聴覚士1 私も環境調整や提供方法の工夫がまだまだできそうな方だと思って聞いていました。進行性の疾患なのに、2年前のSTの指導を継続してるのはど

うかと思うので、今の状態をみてもらう必要がある。

● 多職種からのアドバイス

家族だけの車椅子への移乗は
スライディングボードが安全。
まっすぐで小さいものが使いやすい。

K 理学療法士 進行性核上性麻痺の方では、体が突っ張ってくる人と、丸まってくるタイプの方がいらして、どちらの方も車椅子には乗りにくい。この方は、丸まってくるタイプなので車椅子に座ってもらう工夫はかなり必要だし、車椅子に乗せる介助も大変という気がします。

移乗ですが、リフトの導入も選択肢としてはありますが、息子さんの病気のことを考えるとスライディングボードが無難かと思います。スライディングボードは、限りなく小さいものの方が使いやすい。曲がってなくて、まっすぐなタイプの小さいものを使えば、車椅子の移乗はご家族2人で可能だと思います。

余談ですが、こちらのお宅では、スライディングシートをレンタルされているということですが、私も自分の腰痛予防のために、スライディングシートを持って歩いています。持ち上げないで、滑らす。ベッド上でリハビリしているとだんだん足元の方にずれてきますけど、それを直すのも、どんなに軽い人でもスライディングシートを入れて上にすべらせています。落ちたところで服を直してスライディングシートを入れて上にすべらせると、オムツやパッド、リハビリパンツがずれないというメリットもあります。

車椅子も選定し直す必要がありますね。6輪の車椅子でなければ家の中が動けないぐらいの狭い環境ということですので、その中でも一番フィッティングしそうな車椅子を選び直して、クッションもレンタルして、座位を安定させれば座れなくはない。ただ、進行性核上性麻痺で発症から10年たっていると、体力も限られる。先ほども話ができましたが、生活していく上で何を優先するかの見極めが必要だと思います。

Y 作業療法士 進行性核上性麻痺の末期で、今後は、

尿路感染症とか褥そうのリスクも高くなる。入院を考えなければいけない場面も増えてくるでしょう。本人、ご家族が何を希望し、どこを目指して、どう亡くなっていくかということを今考えることが大事だと思います。

● 多職種からのアドバイス

家族のこれからを考えることは、
心残りなく旅立つために必要な支援。

小規模多機能管理者 この方は、誠実に生きてこられた方とお見受けいたします。行く末を考える時、自分が死んだ後、妻や息子が暮らしていけるかが一番の心配事でしょう。今は、生活保護法と介護保険法でご家庭を支えています。息子さんへの支援では、生活困窮者支援法も考えられます。家族がさまざまに困難を抱えている家庭、いわゆる多重困難家庭に生活保護を受給させれば終わりではなく、自立支援に向けてサポートしていこうという法律です。自治体によりバラつきはありますが、私の地元では、社会福祉協議会がコロナ禍の中で、1年間で数百という単位の相談を受けて、さまざまな連携チームを作っています。ご主人様が最後を迎えられたとしても、奥様や息さんが自立して、生活していく道があるということ、枕元で語っていけば伝わるのではないかと思います。ご本人が亡くなった後も、引き続き支援体制が必要なのだと思います。

I 看護師 ご本人がいかにカニが好きで、奥様の食べさせてあげたいという気持ちがとてもよくわかりました。私だったら神経難病の終末期と捉えて二つ考えます。まず、さっきも申し上げたようにカニを食べさせるタイミング。あともうひとつは死ぬタイミングの時に何を整えたらよいかです。

カニは、もし本当に嚥下ができなくて食べられなかった時は、ガーゼにくるんでちゅぱちゅぱと吸ってもらう方法もあります。

20代で病院勤務の時に、意識が落ちていたおじいちゃんが焼き芋屋さんの声に反応して、ご家族が「お爺ちゃん好きだったよね」と話しかけているのを見て、何とか食べさせたいと思ったんです。気管切開をしてるから食べるのは無理なので、一応先生に

確認をして、ガーゼでくるんで口に入れたら、ちゅばちゅばして離さなかったんです。そのことが看護師としての原点というか、忘れられない出来事なので、どんな終末期であっても、好きなものを食べさせて差し上げるようにしています。

もうひとつ、死ぬタイミングなんですけど、良い顔のまま亡くなっていただきたい。このケースでは、週3回の点滴をどこかのタイミングで減らさないといけない。判断は医師ですが、看護師の見極めや医師への伝え方も重要です。かつ、私だったら、この世に悔いがないように逝かせてあげたいので、気になるご家族がいらっしゃったら訪問看護やワーカーを入れます。

「病人を看護することはひとつの芸術である」とナイチンゲールは言っていて、私はその言葉をとでも大事に思っています。病気だけを見るのではなく、それぞれの持っている力を引き出して、息子さんの受け入れとお父様の死のタイミングを見極めてかわっていけるといいなと思います。家族それぞれの人生を自らが、よりよく暮らせるように逝けるように生きる力を引き出して、人生を共創できるといいですね。

訪問している看護師は、息子さんのことまで頭がまわっていないかもしれないので、ケアマネジャーさんから言ってみてはどうでしょう。「そうだね。お父さんこれじゃ何か心残りだよ」と一緒に考えてくれるかもしれません。

言語聴覚士 3 今のお話はST（言語聴覚士）の業界では「最後のワンスプーン」と言うんですけども、自分ならカニ食べちゃだめですかってストレートに医師に聞くとお思います。本当に心配なのは誤嚥性肺炎より、誤嚥性窒息。昔一緒に仕事をしていた先生は、肺炎だったら飛んで行って治療するからとおっしゃってくださいましたので、思い切ってネギトロみたいなものも口に入れて、できるだけ本人が食べたいものを食べていただいていたいました。ただ、私もこの方は、嚥下障害よりも最後をどう生きていくかがテーマになる方ではないかと思って伺っていました。

司会 医師の立場からはどうお考えでしょうか。

Fドクター この時期になると、死ぬことは怖くなくて、死ぬまでの後悔が怖い。あれをやり残したと

か、あの人には一声かけておきたかったとかですね、そういうような後悔が怖いと言われてます。一番良いのは、これが俺の人生のゴール、他に替えようがなく俺にとって唯一の人生だったと思って死ぬことです。最近、年を取ってきたので自分でもそうだなと思っています。これが1回きりの人生、これで良かったみたいな感じを自分で獲得するかなんですが、ヒーローものでよくあるじゃないですか、最後の最後であとは頼むみたいなシーンが。そういう感じで、家族のためにメッセージを残せるかは、結構重要じゃないかと思っていて、本人が認知症でぜんぜんどうにもならない感じでなければ、「家族に何か伝えたいことありますか」とかはしょっちゅう聞いていい。「これが俺の人生」っていうのを感じる上で、非常に重要だと思います。死が近づくと、今自体が未来だみたいなことを感じてくるとも言われています。つまり今この時点で生きてることが自分自身の未来であるというような感覚になる。そういう視点でも、今の介入がすごく大事だろうと思えます。

あとは息子さんに関してですが、歯の詰め物で何か伝えてくるとか、コントロールされるというのは統合失調症の典型的な陽性症状で、あまり病勢がコントロールされている感じがしないので、きちんと診療を受けるようにして、精神科訪問看護を入れるみたいなことをしたほうが良い。自分の想定外の変化があると、バリアを張ってブロックしてしまう状況ですので、例えば、父親の往診の時に医師から、ちゃんと薬を飲んでますかとか聞いて、薬をとりに行くのが大変だったら往診で出してもいいよみたいな感じでもいいかもしれませんね。それで、その時に精神科の訪問看護を間に入れるみたいな形で、息子さんの方に何かやった方がいいような気がしました。そういう点では私も、まだやることあるなっていうふうに思いました。

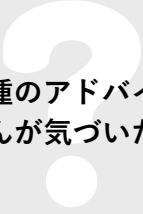
最後になりますが、ケアマネジャーが、素晴らしく全体像を把握されていて、非常に感動しました。ありがとうございます。

司会 いろいろなアドバイスがありましたが、感想でも結構ですし、最後に一言お願いいたします。

D子さん 今、最後に近いところにいるのは自分でも感じています。それでもできることを考えてくだ

さったことが、何よりもありがたく、私もまだまだやれることがあるという思いになれました。教えていただいたように、この方が後悔しないで人生を終えることを目指していきたいと思います。本当にありがとうございました。

一同 拍手



**多職種のアドバイスで
D子さんが気づいた手立て**

- ① 専門家による摂食・嚥下機能の評価が受けられる。
- ② ゼラチン以外にもさまざまな嚥下補助剤がある。
- ③ 体力が限られるので、活動の優先順位をつける。
- ④ 後悔しない人生とするために今できることがある。
- ⑤ 息子さんを訪問看護につなげる。